

～あかるく なかよく たくましく～

〇見えないけれど、確かにあるものに目を向けることの大切さ

今年度の一学期は、例年とは異なることばかりの連続でした。

人類にとって未知のウイルス（新型コロナウイルス、COVID-19）が出現し、瞬く間に世界中に広がり、「社会的距離（ソーシャルディスタンス）を保つこと」や「密集・密接・密室（三密）を避けること」、「換気の徹底」、「マスクの着用と手指消毒」など、私たちの生活様式も一変しました。

学校生活でも、健康観察の徹底や登下校の送迎をお願いしたり、ちょっとした風邪症状でも通院していただいたりするなど、保護者の皆様に御協力いただければならぬことが増えました。皆様の御理解と御協力に感謝いたします。

私は、新型コロナウイルスがまん延し、「新しい生活様式」が求められる中で、これまで確かにあったのに、見えなかったものがあることに気付かされました。

一つ目は、私たちは、人と人との「つながり」の中で生きていることや、「つながり」があることで様々な感情が生まれること、そうした「つながり」を求めていることです。



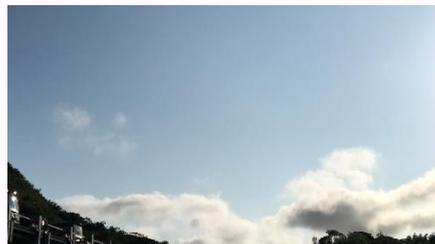
6年生が司会や進行をしました。
画面を介した交流を楽しみました。
次回は、9月14日（月）に実施予定です。

小学部では、三密を防ぐために、「学部集会」を実施することができなくなりました。

しかし、「Zoom」というインターネットの機能を活用して、「小学部チャンネル」という新たな授業に取り組みました。画面越しでしたが、子供たちは、他学年の友達や教師の顔を見たり、声を聞いたりすると、ほほ笑んだり、うれしそうに体を動かしたり、また、友達や教師の名前を呼ぶなど、相手との関わり、つながりを求めていることを感じました。

二つ目は、感謝の気持ちです。一人一人が孤立しがちな今、どうしても「苦しいのは自分だけ」、「つらいのは自分だけ」という気持ちになりがちです。

でも、私たちは、誰かに支えられながら生きています。医療現場で必死に未知のウイルスと闘っている方、コンビニやスーパーなどに品物を搬入している方、新聞を毎朝届けてくれる方、子供を育てている保護者の皆様など、当たり前のことですが、そうした多くの方々がいることで、私たちの生活は成り立っています。



前回の学部だよりで掲載した写真です。
感謝という視点で見ると、この空の下で様々な方が生活している情景が思い浮かびます。

そんな一人一人に「ありがとう」と感謝する気持ちをもつことや、感謝の気持ちを伝えることができることが人間の力なのだと気付きました。

二学期も、様々な困難が生じることが予想されますが、子供たちにとってよりよい学校生活となるように、指導を行っていきます。引き続き、よろしく願いいたします。

（文責：小学部主事 塚田）